**◆　ことば・－家族を　あらわす　ことば**

*ことば・表現（ひょうげん）を知る（しる）*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（３１）ときう

（１）わたしの



























（２）さんの ご









ばあさん

さん

ご







おさん

おさん













さん



さん

さん

おさん

さん

おさん

**指導ノート**

***取り上げる生活上の行為の事例***

（3102010）「自己紹介の仕方を理解する」

（3102020）「相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する」

（3102050）「仕事上の公的な自己紹介をする」

（3102070）「私的な場面で自己紹介をする」

（3101130）「人間関係のきっかけを作る挨拶をする」

***教室活動の目標***

－自己紹介をすることができる。

***教室活動のねらい***

－自分の基本的な情報を伝え，初対面の人と人間関係を築く基礎を作る。

－挨拶の種類を選択できる。

－場面に応じた表現を選択することができる。

－相手の立場に合わせた表現ができる。

－敬語・丁寧体を適切に利用できる。

・　自己紹介は，自分の基本的な情報を伝え，初対面の人との人間関係の基礎を作るものです。自分自身のことを表現し，自身の社会参加の第一歩でもあります。場面や相手に応じた自己紹介の「型」を紹介するだけでなく，やり取りの中で，その人らしい自己紹介ができるように，一緒に考え，新しい形を作っていくこともよいでしょう。

***活動前に確認しておくこと***

－学習者の名前（姓と名がある場合の順序，母語での表記，日本語での発音

等）の把握

－学習者の出身地，現在住んでいるところの地名の把握

***準備する素材***

－「イラスト･写真」の拡大コピー（あらかじめ黒板等に掲示）

－世界地図，日本地図，地域の地図（あらかじめ黒板等に掲示か，必要に応　じて掲示）

－首からさげる名札（学習者の名前を書いておく）と机に置く名札にするＡ４用紙

***イメージをつかむ***

**●　イラスト・写真シート**

**・はじめまして（p.155）**

・　初回のクラスであれば，自己紹介の文脈は自然に認識されるので必ずしも必要ありませんが，「自己紹介」という概念を可視化するために，イラスト･写真シート（p.155）の拡大コピーをあらかじめ黒板等に掲示しておくとよいでしょう。

・　初回のクラスで，学習者の多くが日本語のほとんどできない人の場合，「名乗り」（わたしは，○○です。）の導入から行う必要があります。

・　その場合は，名札（首からさげるものでも，机に置くものを手に持ってでもかまいません）を掲げて行います。まず，指導者が，自分の名札を示し，自分の胸を手で指して，「わたしは，○○○○です。」と言います。次に指導者は学習者一人一人について，その名札を読むようにして，「この人は，○○○○さんです。」と言い，「わたしは，○○○○です。」と言わせるように促します。その学習者に向かって手で「どうぞ」と促しながら，必要なら「わたしは……？」と言葉を添えます。「わたしは，○○○○です。」と言えたら，大きくうなずいて「いいですね」などと褒めてください。自分の名前に「さん」を付けて，「わたしは，○○○○さんです。」という学習者もいると思います。「さん」を取って，「わたしは，○○○○です。」と言い換えて，学習者にまねをさせます。この活動を全員で行います。恐らく，かなり時間がかかると思います。その場合，以下の活動は，可能な範囲で行います。

＜問いかけ例＞（※「イラスト･写真」の拡大コピーを指して）

「ここは，どこですか。」

「これは，誰ですか。」

「あなたの国では，初めて会った人とどんな挨拶をしますか。」

「日本で，初めてあった人とどんな挨拶をしましたか。」

「自己紹介はできますか。」

・　ここでは，以上が済んでいる学習者の場合として次の活動に進みます。

**■活動シート**

**活動１－わたしは…（p.156）**

***体験・行動する***

・　指導者は，学習者の名前を呼んで確認しながら，学習者一人ひとりの名前を書いた名札を配布します。指導者から始めて，学習者が自分の名札を示しながら「○○○○です。」と名前をはっきり発音します。仮名がある程度書ける学習者が多ければ，自分の名前を発音しながら仮名で書く練習をします。必要に応じて指導者や協力者がフォローしてください。仮名が書けない学習者が多ければ次の活動に移ります。

・　次に，１５６ページの写真を参照しながら，Ａ４用紙を四つに折って，一つの面を重ねて三角柱を寝かした形のネームプレートを作ります。学習者は，三角柱を一度開いて，一つの面にカタカナ又はひらがなで自分の名前を書きます。５０音図（ひらがな・カタカナ）も黒板等に掲示しておき，適宜，音と文字の参照ができるようにしておきましょう。

仮名が書けない場合は一面に母語で書いてもらって，指導者や協力者が，その発音を聞いて，別の面に仮名で書きます。

学習者が書き終わったら，指導者は自分の名札を指で指し示し，自分の名前を言います。それに倣って，学習者が一人ずつ自分の名前を言っていくように促します。

次に，地図を指し示しながら，出身地についても言い方を確認します（正確な文になっていなくても，まずは固有名詞のレベルで確認ができることを目指し，余裕がある人には文の形でも確認できるように提示するとよいでしょう。）。

＜やり取りの例＞

指導者：「出身は？」（※地図のいろいろなところを指しながら聞く）

学習者：（※地図中にある自分の出身国や地域を指差す）「ちゅ・・・」

指導者：「ちゅうごく」

学習者：（リピート）「ちゅうごく」

指導者：「ちゅうごく　の…　ペキン？　シャンハイ？」

学習者：「あ…　ダイレン」

指導者：「ダイレンですね。ちゅうごく　の　ダイレン。出身は　中国の

大連です」

***体験・行動する***

**■活動シート**

**活動２―どうぞよろしく（p.157）**

・　指導者は活動２「どうぞよろしく」（p.157）を配布します。また，指導者自身がワークシートに記入したものもコピーして配布します。

・　指導者は学習者に「どうぞよろしく」の表現の確認をした後，ワークシートに「【1】名前」と「【2】出身」「【3】家族」「【4】すんでいるところ」を，ひらがなとカタカナを用いて記入してもらいます。

・　ごく初期のクラスの場合は，仮名の読みの練習・確認をするステップを入れてもよいでしょう。学習者がひらがな・カタカナが書けない場合は，アルファベット等を用いて書いてもらって指導者が仮名で併記する形で書き込んで示したり，学習者が発した音を聞いたりしてワークシートに指導者が書き込んで示してもよいでしょう。

・ワークシートのそのほかの項目（【5】，【6】）は「より熟達した行動へ」の活動４で利用します。学習者に応じて利用してください。全ての項目について学習者の母語訳は適宜増減してください。

・　指導者は「わたしは○○です」「出身は○○です」の表現形式を使って，自分のことを述べるモデルを示します。続いて学習者が一人ずつ言っていきます。

・　同様に「家族は○○人です」「○○に住んでいます」についても行います。

・　全員が終わったら，指導者は，「はじめまして，どうぞよろしくお願いします」の意味の確認をし，動作と一緒に「はじめまして，どうぞよろしくお願いします」「こちらこそ，よろしくお願いします」の表現練習をします。協力者がいる場合は，始めに指導者と協力者がモデルを示すとよいでしょう。協力者がいない場合は，この挨拶表現に慣れていそうな学習者を相手にモデルを示します。その後で，学習者と指導者，学習者同士で動作をしながら初対面の挨拶の練習をします。

・　最後に，クラス（クラス人数が多い場合は，グループ）全体に向けて，自己紹介の挨拶をします。一人ひとりが，「はじめまして，わたしは○○○○です。出身は○○です。家族は○にんです。○○に住んでいます。よろしくお願いします」と言って仕上げとします。

***体験・行動する***

**■活動シート**

**活動３－活動シート「どうぞ　よろしく」で協力者との交流活動（p.157）**

・　日本語話者（日本人，または日本語でのコミュニケーション力のある外国人）に，協力者として教室に参加してもらい，活動２で学習した表現を使って，実際に自己紹介を行い，また協力者と学習者がペア，あるいは一人対二人か三人で，写真を見せ合いながら対話を行います。協力者に，自分の写真（出身地，家族，趣味があらわれているものなど）を持って来てもらうように，指導者は前もって連絡しておきます。

・　活動２までを初回の授業で終え，活動３を次の回で行うことが考えられるので，その場合は，初回の活動の最後に学習者にも「次回は写真を持って来てください」ということを伝えておくと，より活動が進めやすくなるでしょう。

・　指導者は，学習者と協力者をペア，または小グループに分けます（協力者一人に対して学習者１～３人程度が望ましいが，協力者の人数によって適宜調整してください）。それぞれのペア又はグループで，メンバー同士で自己紹介をしてもらいます。まずは，活動２で学習した表現を使用して，一通り自己紹介ができたら，それぞれに持って来た写真を見せ合いながら，会話を進めるようにします。指導者は学習者と協力者との対話が円滑に展開しているかどうかを見守りながら目配りし，話が進まなくなっているペア／グループにおいては，対話を活性化させるための問いかけを指導者が投げかけるなどし，意思疎通がうまくいくように手助けをします。ただし，学習者側の日本語力によって，表現可能なことを全部使い果たしているようなグループが出たら，全ての協力者が一斉に別のグループへ移動することをお願いします。

***体験・行動する***

**■活動シート**

**活動４－いろいろな自己紹介（p.158～159）**

・　名前，出身，居住地，趣味，仕事，家族などの中から，学習者の日本語能力，場面や相手に応じて必要な項目，好きな項目を選んで自己紹介ができるようにします。

・　活動シート３「いろいろな自己紹介」に示されている　例１～例５の場面別の例について，指導者は協力者と共に実演し，学習者にそれを観察してもらいます。指導者は「ここはどこでしょうか」「これはだれですか」等，各場面のイラスト等を指しながら質問し，場面や状況の違いについて気付いたことを言ってもらいます。

・　ビデオ機器が使える環境であれば，多様な自己紹介（初対面の挨拶）場面のビデオを見せて，さらに観察を促すのもいいでしょう。観察した場面の中で，自分が実際に遭遇しそうな場面を学習者に選んでもらい，例を参考にしながら自分なりの自己紹介をシミュレーションしてみます。

＜参考となるビデオ＞

例１）スリーエーネットワーク『みんなの日本語Ｉ　会話ビデオ』「第1課」「第２課」

例２）国際交流基金『WEB版エリンが挑戦！日本語できます』

・第１課「はじめてのあいさつ－教室」

（※基本スキット，応用スキット，大切な表現，やってみよう（名刺交換），

　いろいろな使い方）

・https://www.erin.ne.jp/jp/

例３）国際日本語普及協会『ようこそ！さくら小学校へ～みんななかまだ～』

「１．はじめてのあいさつ　①校長室で　②教室で」

「２．学校生活と仲間たち　⑧運動会」（保護者とのあいさつ）

例４）国際日本語普及協会『Japanese for Busy People I: The video 』Lesson 1

＜社会文化情報＞（指導者，協力者の参考資料として）

・文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について』

・　p.96 「社会・文化的情報　3102010自己紹介の仕方を理解する」

・　p.97 「社会・文化的情報　3102020相手や状況に応じた自己紹介の仕方

を理解する」